

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
0 建築物の環境品質								2.8
Q1 室内環境								2.8
1 音環境		3.0	0.15	-	-			3.0
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-			
1.1.1 室内騒音レベル		3.0	1.00	3.0	-			
1.1.2 設備騒音対策		-	-	-	-			
1.2 遮音		3.0	0.40	-	-			
1.2.1 開口部遮音性能		3.0	0.60	3.0	-			
1.2.2 界壁遮音性能		3.0	0.40	3.0	-			
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-			
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-			
1.3 吸音		3.0	0.20	3.0	-			
2 温熱環境		2.6	0.35	-	-			2.6
2.1 室温制御		3.0	0.50	-	-			
2.1.1 室温		3.0	0.38	3.0	-			
2.1.2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-			
2.1.3 外皮性能		3.0	0.25	3.0	-			
2.1.4 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-			
2.1.5 温度・湿度制御		-	-	-	-			
2.1.6 個別制御		-	-	-	-			
2.1.7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-			
2.1.8 監視システム		-	-	-	-			
2.2 湿度制御		1.0	0.20	3.0	-			
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	-			
3 光・視環境		2.8	0.25	-	-			2.8
3.1 昼光利用		2.4	0.30	-	-			
3.1.1 昼光率		2.0	0.60	3.0	-			
3.1.2 方位別開口		-	-	3.0	-			
3.1.3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	-			
3.2 グレア対策		3.0	0.30	-	-			
3.2.1 照明器具のグレア		-	-	-	-			
3.2.2 昼光制御		3.0	1.00	3.0	-			
3.2.3 映り込み対策		-	-	-	-			
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	-			
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	-			
4 空気質環境		3.1	0.25	-	-			3.1
4.1 発生源対策		4.0	0.50	-	-			
4.1.1 化学汚染物質	化学汚染物質発生材を不採用としている。	4.0	1.00	3.0	-			
4.1.2 アスベスト対策		-	-	-	-			
4.1.3 ダニ・カビ等		-	-	-	-			
4.1.4 レジオネラ対策		-	-	-	-			
4.2 換気		2.3	0.30	-	-			
4.2.1 換気量		3.0	0.33	3.0	-			
4.2.2 自然換気性能		3.0	0.33	3.0	-			
4.2.3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.33	3.0	-			
4.2.4 給気計画		-	-	-	-			
4.3 運用管理		2.0	0.20	-	-			
4.3.1 CO <sub>2</sub> の監視		1.0	0.50	-	-			
4.3.2 喫煙の制御		3.0	0.50	-	-			
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-			3.2
1 機能性		2.9	0.40	-	-			2.9
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	-	-			
1.1.1 広さ・収納性		3.0	0.33	3.0	-			
1.1.2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33	3.0	-			
1.1.3 バリアフリー計画		1.0	0.33	-	-			
1.2 心理性・快適性		4.3	0.30	-	-			
1.2.1 広さ感・景観	天井高さを2.7M以上としている。	4.0	0.33	3.0	-			
1.2.2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース及び自動販売機置場を確保している。	5.0	0.33	-	-			
1.2.3 内装計画	流通センターと執務エリアの機能を明確化し、内装に反映させている。	4.0	0.33	-	-			
1.3 維持管理		2.5	0.30	-	-			
1.3.1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-			
1.3.2 維持管理用機能の確保		2.0	0.50	-	-			
1.3.3 衛生管理業務		-	-	-	-			
2 耐用性・信頼性		3.0	0.31	-	-			3.0
2.1 耐震・免震		3.0	0.48	-	-			
2.1.1 耐震性		3.0	0.80	-	-			
2.1.2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.33	-	-			
2.2.1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-			
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.23	-	-			
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-			
2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-			
2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.15	-	-			
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-			

2.4 信頼性			3.4	0.19	-	-	
1	空調・換気設備	吊配管を採用している。	4.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備	通信の多様化を図り、浸水の危険がない計画としている。	4.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			3.8	0.29	-	-	3.8
3.1 空間のゆとり			5.0	0.31	-	-	
1	階高のゆとり	階高3.9M以上としている。	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.07としている。	5.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.6	0.38	-	-	
1	空調配管の更新性	構造、仕上に干渉せずに更新が行える様配慮している。	4.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性	配線のための配管を設置している。	5.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性	配線のための配管を設置している。	5.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース		3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.39	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.8
1 建物の熱負荷抑制		事務所エリアに断熱材を使用し、熱負荷抑制に配慮している。	3.8	0.02	-	-	3.8
2 自然エネルギー利用			3.0	0.28	-	-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化		ERR=36.7%としている。	5.0	0.42	-	-	5.0
集合住宅以外の評価(ERRによる評価)		ERR=36.7%	5.0		-	-	
集合住宅の評価			3.0		-	-	
4 効率的運用			3.0	0.28	-	-	3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護			3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.1	0.63	-	-	3.1
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.25	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.21	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.21	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取り組み	躯体と仕上を容易に分離できるよう配慮している。	4.0	0.25	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.22	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.68	-	-	
1	消火剤	ハロン消火剤を使用しない。	4.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ノンフロン断熱材を採用している。	5.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		LCCO2削減率14%としている。	3.5	0.33	-	-	3.5
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制	浸透貯留層の採用をしている。	4.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐車スペースを確保し、渋滞を起こさないよう計画している。	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害・砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策チェックリストの過半を満たしている。	4.0	0.70	-	-	
2	壁光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	